

第3回なにわECOスクエア（生物多様性保全に向けたネットワーク会議）

日時：平成31年2月14日（木）15時～17時

会場：環境活動推進施設（愛称「なにわECOスクエア」）1階

参加者：17人

配布資料：次第

資料1 各主体が実施する生物多様性保全に関する取組み

「みんなで支える 自然いっぱいの環境づくり」チラシ

「グリーンアドベンチャー@市大」チラシ

第2回なにわECOスクエア（生物多様性保全に向けたネットワーク会議）議事要旨

出席者自己紹介

議題1

各主体が実施する生物多様性保全に関する取組みの情報共有

資料1に基づき、大阪市立環境科学研究センター、天王寺動物園、大阪自然史センター、大阪自然環境保全協会、なにわの片葉葦保存会が説明。

<各主体説明内容への質問・意見要旨>

- 天王寺動物園がイベントに他機関と連携しているのは、WWFやIUCNのような元々のつながりの他、そこから派生してつながりを持った団体や、会議の場で直接声をかけるなどしている。
- NTT西日本では、これまで奈良でニッポンバラタナゴ、滋賀でブラックバス、静岡～沖縄でタンボボ調査などに協力してきた。静岡から沖縄まで拠点があり、人が多いのでいろいろな情報が集まりやすい。大阪府の共生の森活動にも参加している。来年度は自然体験観察園のピオトープに協力の予定。

議題2

生物多様性の取組みを進めるうえでの課題等に関する意見交換

<人材確保について>

- 「人」が足りないという意見が多かったと思う。たくさん会員等がいる団体では、専門的知識を持った人が参画しているのか、もしくは興味本位で入った人が集まっているのかなどの会員の構成をお聞きしたい。
- （各団体が構成人数や運営方法などを紹介）
 - ・運営側の人員を集める際にはHPに掲載して公募する
 - ・人材育成講座を実施し、受講者の中で会員に登録した人が講座の講師を務めている。
 - ・活動が口コミで広がっている。
 - ・会員数は団体によりさまざまであり、20名～1,700名程度。
 - ・会員数を増やすことが目的ではなく、一定の地域における活動に理解を示してくれる近隣住民などに声をかけて活動を知ってもらい、参加してもらっている。
 - ・各団体さまざまな講座や講演会などを実施している。
 - ・ボランティアとして登録してくれた人が、どのように活躍し、またスキルアップできるかについては、各活動団体が魅力的なことをしていれば、継続して活動する人も多くなると思う。いかにインセンティブを持たせてスキルアップしてもらえるかにかかっている。

<市内の生物多様性データの集約について>

- 情報は各団体が持っているのか。持っている場合、情報発信の権利は各団体に帰属しているのか。情報共有やデータ引継ぎのノウハウがあるのか、そもそも共有が可能なのかを聞きたい。
- 何十年間にわたり実施してきた調査の膨大なデータが蓄積されている。当時のものはデータ管理がされておらず、紙媒体のものが多く、活用がされていないため、非常にもったいない。
- データ集約にあたっての権利については、公表されているデータを引用することはできる。他都市では、行政が公表した調査結果のデータに、他団体の公表されたデータを追加してレッドデータを作っている。大阪市の場合はデータ量も多く、データ化されておらず形式もバラバラなので、集約には時間と労力がかかり難いだろう。
- 大阪市における具体的な方法例を挙げるとすれば、自然史博物館と環境科学研究センターのデータを土台に大阪市や既存の文献を重ねていくといった方法が考えられる。
- 標本の作製については、希少種ではなく、普通種を標本に残すことは博物館では難しいため、将来的に希少種になり得る生物を標本に残すことは環境局の役割かもしれない。

議題3

大阪市からの情報提供

- 以前から実施している連続講座（第4回2/23、第5回3/2）、グリーンアドベンチャー@市大（3/17）、生き物さがし発表会（3/21、標本展示は3/19～4/7）などの案内。
- 当会議となにわエコ会議との連携については、現在調整中のため今後当会議の中で報告する。
- 当会議については、次年度も引き続き開催する。
- 各取組みを環境学習ポータルサイト「なにわエコスタイル」に掲載可能なため、情報提供してほしい。